

「神様・仏様」

正月の箱根駅伝は驚きの結果だった。創価大学の往路優勝に、辛口コメンテーターの張本は「アップレ！」を付けた。復路で追いつかれた最終ランナーには「喝！」とは言わなかった。あの張本にもまだ「情」があったのだろう。1月2日は池田大作創価学会名誉会長の誕生日である。選手の8割は学会員らしいが、何か不思議な力が働いたのだろうとある週刊誌のコラムにあった。

以前の私なら、単なる偶然に過ぎないと一蹴しただろうが、歳のせいもあるが10年前のある出来事から「因果応報」や「罰が当たる」などをなぜかしら気にし始めたこともあって、選手の健闘に1月2日というものが何かの意味を持ったのかも知れないと感じたものだ。

今から約10年前、私は左足の時折訪れる激痛に悩まされ、日々の階段の昇降や車の乗降など生活に支障がきたす毎日が続いていた。もちろん大好きなゴルフも思うようなプレイができず、ストレスを抱える日々であった。整形外科を受診したが原因不明の痛みから解放されることはなかった。

そんなある日、車の運転中にバックミラーに取り付けていた交通安全のお守りが見当たらないことにふと気づいた。京都の松尾大社で初詣の際に、参拝の記念にと軽い気持ちで買ったものだ。運転席や助手席など見渡したが見つからず、何気なく左足を動かすと、なんと靴の下からそのお守りが見つかった。私はどうも知らずにお守りを左足で踏み続けていたらしい。ひとまず元の位置に取り付けた。

友人にそのことを話すと、「お守りは仏様みたいなもの、その仏様を踏みつけていたのだから罰が当たったんや！」と諷められたが、神様・仏様など信じていなかった私はそんなことがあるはずがないと笑い飛ばしていた。

その一週間後、私は左足になんの違和感もなく過ごしていることに気づき、奇妙な気持ちになった。不思議なことに足は本当に完治し、ゴルフもまた楽しめるようになった。この日を境に、仏様や神様に関することを気にし始め、神社でのお参りではお賽銭を入れ、「2礼2拍1礼」をしっかり守ってお参りするようになり、願い事をする前に住所と名前を言うなんてことも守るようになった。お墓参りも年に2回欠かさないでいる。

ゴルフ友達がとんでもない方向に打った球に、思わず「神様！」と叫んでいた。私は今でも「お母さん！」と叫んでしまうので、神様・仏様は私を守ってくれないかも知れない。

(丹羽 豊)